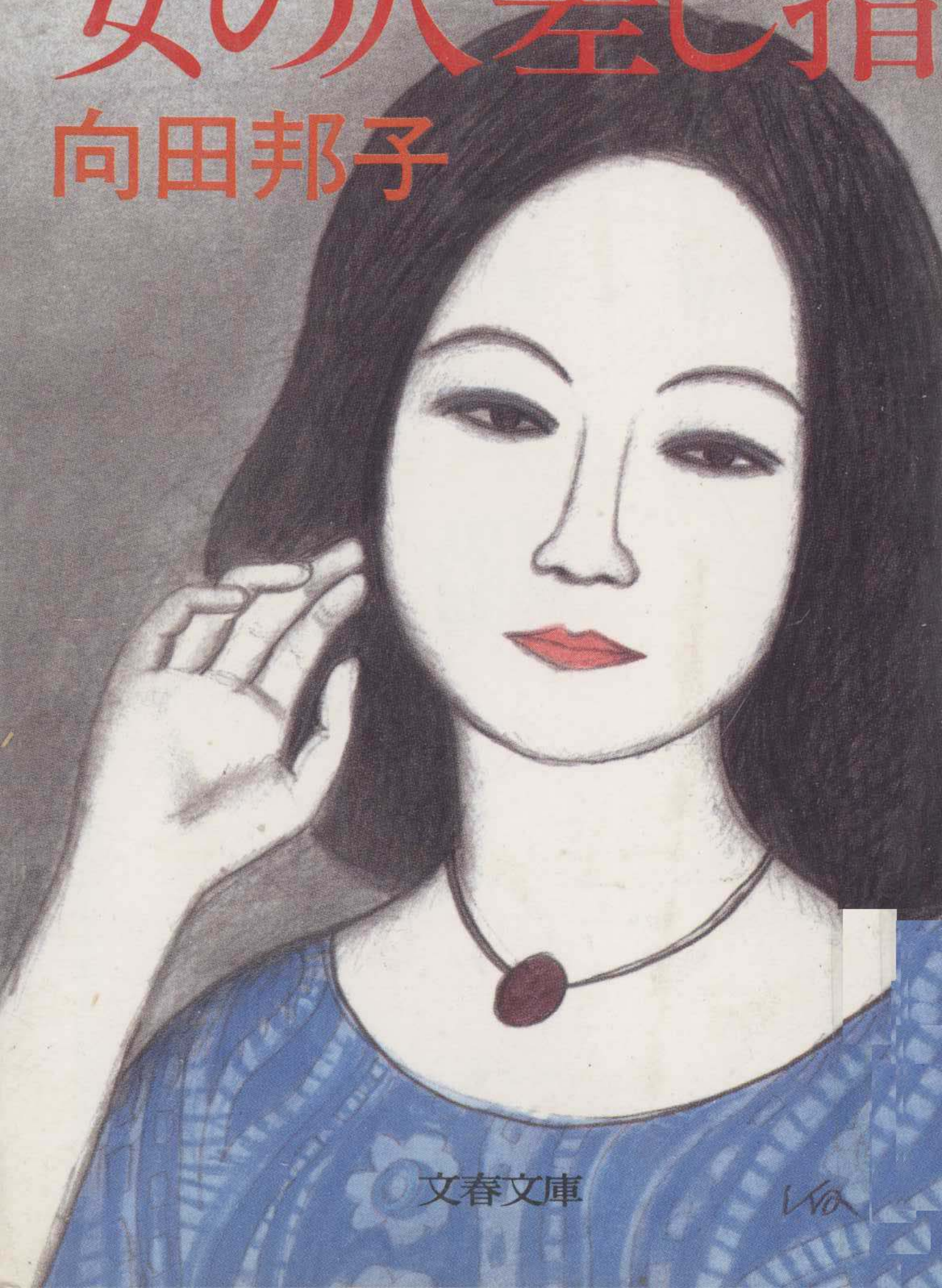


指差しの人女

向田邦子



文春文庫

WVA

女の人差し指

定価はカバーに
表示してあります

1985年7月25日 第1刷

1990年5月10日 第10刷

著 者 向田 邦子

発行者 豊田 健次

発行所 株式会社文藝春秋

東京都千代田区紀尾井町3-23 〒102

TEL 03・265・1211

落丁、乱丁本は、お手数ですが小社営業部宛お送り下さい。送料小社負担でお取替致します。

印刷・凸版印刷 製本・加藤製本

Printed in Japan
ISBN4-16-727706-9

文庫

女の人差し指

向田邦子



文藝春秋

女の人差し指 目次

女の人差し指

チャンバラ 13

蜘蛛の巣 19

昆布石鱖 25

動物ベル 31

糸の目 37

買物 43

香水 49

白鳥 55

セーラー服 61

骨 67

桃太郎の責任 73

ハンドバッグ 79

有眠 85

クラシック 91

テレビドラマ

ライター泣かせ 99

ホームドラマの嘘 103

テレビドラマの茶の間 115

名付け親 119

家族熱 124

胃袋 128

一杯のコーヒーから 131

モンロー・安保・スーダラ節 136

灰皿評論家 139

テレビの利用法 142

イチスジ 144

七不思議 146

放送作家 148

忘れ得ぬ顔 151

あいさつ 153

食べもの

板前志願 159

思いもうけて…… 163

こまやかな野草の味 167

「ままや」繁昌記 169

母に教えられた酒呑みの心 181

旅

二十八日間世界食いしんぼ旅行 185

わたしのアフリカ初体験 188

人形町に江戸の名残を訪ねて 196

でこ書きするな 208

眼があう 210

揖斐の山里を歩く 216

モロッコの市場 230

ないものねだり 233

煤煙旅行 241

羊横丁 245

私と絹の道 249

沖縄胃袋旅行 253

大学芸運動会 269

何故、今、向田邦子さんなのか?! 深町幸男

273

女の人差し指

女の人差し指

チャンバラ

高いところから墜落して、一時的にだが記憶喪失にかかった人がいる。

「意識がもどって、はじめて箸^{はし}を見たとき、これはなんなのか、何に使うのか判らなかつたです。判らないなりに、なんかひどく懐しいんだなあ。懐しくて涙が出そうなのに、ここまでするかかってるのに思い出せない。あの情けなさといったらなかつたなあ」

ハシ、という名前と、何に使うか判ったときは、嬉^{うれ}しくて男泣きに泣いてしまったという。

私は、字を書いてお金を頂くようになって二十年になるけれども、それでもペンを持ってる時間より、箸を持っていた時間のほうが長いに違いない。

とにかく、二本の箸と日本人は切っても切れない間柄にある。当然、箸の使い方にかけては、中国人とならんで上手である。

ただし、ナイフとフォーク、これは当り前のことだが欧米人に一步も二歩も譲る。一体、どこが違うのだろう。

この間、二週間ほど、青い目の人たちと三度三度一緒に食事をしたのを幸い、この研究を試みた。答は、欧米人はナイフとフォークをふわりと持って、実にやさしい。それに引きかえ日本人は、

「右手に血刀、左手に手綱」

ではないが、固いのだ。欧米人を和事とするなら、日本人は荒事である。

洋食の食卓に坐るときからして、目付きが違う。

「いざ出陣」

という面持ちである。

右手にナイフ。左手にフォーク。作法にのっとり粗相のないよう、子々孫々まで恥辱を残さぬよう——つまり皿の上でチャンバラを演じているのである。

ナイフは剣で、フォークは刺股である。食事のたびごとに人殺しの道具と同じもので、獣肉を切ったり野菜を突ついたりするのは、気取ってるようで実は野蛮な行為である、という人もいる。

そこへゆくと、箸は洗練の極致で、刃もない二本の棒だけで、突くもむしるもはさむも割るも、すすり込むも何でもやってのけられる。ナイフとフォークでスープはのめないだろう。もうひとつ、スプーンというものを使わなくては、スープの実もすくえないではないかとおっしゃる。

人が集るとまず教会を建て、それと同時に屠殺所とさつじょをつくって、牛や豚を飼って食料とした民族と、まずお寺と鎮守様を建てた農耕民族の日本人の違いが、ナイフとフォーク対策にあらわれているということなのであらう。

そして、いま日本人は、リビング・キッチン、パンとご飯とならんで、お箸とナイフとフォーク、スプーンとを日々の暮らしのなかで使いこなしているごく少ない民族なのではないだろうか。

「東山三十六峰

静かに眠る丑三つ時」

チャンリンヤ スナポコリン

どうしてそういうのか知らない。どこで誰に聞いたのか判らないが、子供の頃、こんなことを口ずさみながら、古新聞を丸めたものを刀に見立ててチャンバラをした覚えがある。